

すぐれた省力・耐震・防火性

2×4工法の特徴

住宅ジャーナル編集部 由木尾 収



すでに二万戸以上の建設戸数

一般新聞紙、住宅雑誌の広告の中で、こんなキャッチフレーズに出会う機会が多くなってきた。

「北米・カナダからきた木造住宅！」

「火災に強い、地震に強い木造住宅！」

「新しい時代の住まい、タウンハウス！」

「木の洋館！△△ハウス！」

「省エネルギー時代の木造住宅！」

住宅のデザインはというと、西洋風の瀟洒なイメージを描き出している。そんな場合の住宅は、まず「ツーバイフォー工法」の住宅とみて間違いない。

この「ツーバイフォー工法」は、公用語としては「枠組壁工法」と固苦しい名前がつけられているが、同工法はもともと北米で伝統的に使われてきた工法である。

それが、日本に本格的に紹介されたのは昭和四十四～五年。そして、建設省告示によって建築業者の誰もが建てられる、いわゆるオープン化になったのが昭和四十九年八月。したがって、この工法はわ



が国に本格的に導入されてまだ四年しかたっていない、木造住宅のニューフェースである。

ニューフェースだから、当然わが国の在来工法と異なるわけだが、たとえば構造面からいうと、在来工法は柱、梁、筋かいなど、いわゆる「線」で支えた「大黒柱中心の家」なのに対して、2×4工法は壁、床など、いわゆる「面」で支えた「柱のない、箱形の家」といえる。前者は、開口部が広くとれ、夏向きの開放型の住宅、後者は、開口部はある程度限定されるが、密閉形の省エネルギー住宅だといえる。

ところで、2×4工法住宅は、いまわが国でどのくらい建てられてきたか。建設省住宅局住宅生産課の調べによると、昭和49年（8～12月）約百七十戸

50年（1～12月）約二千六百戸

51年 約五千戸

52年 約五千二百戸

といったところで、累計すると約一万三千戸が建てられている計算になる。実際には建築確認もれも多く、五〇パーセン